評 価 結 果 概 要 表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700441
法人名	医療法人青峰会
事業所名	アクティブライフ保内
所在地	八幡浜市保内町宮内1－324
自己評価作成日	平成24年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3　チフネビル501
訪問調査日	平成24年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・入浴に関係なく毎朝靴下の履きかえをしている。
・24時間体制で主治医、看護師への緊急連絡が出来指示を仰ぐことが出来るので安心感がもてる。
・毎月　施設新聞を発行し家族さんに近況状況を報告出来るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●運営推進会議は、地域の方やご家族に参加していただきやすいように、基本的に土曜日に開催されている。市の担当者にも、会議に「地域やご家族の方に参加していただくことの大切さ」を理解していただき、快く参加していただいている。会議には、区長、地区の世話役、民生委員、日赤奉仕団の方等に参加していただいている。ご家族に会議を知っていただけるよう事業所では、ご家族全員に会議の案内をされた。そのような取り組みからご家族の会議参加が増え、「ケアの様子等もみれて良かった」等の感想もいただいた。
●東日本大震災の発生時には、津波警報が発令され、警戒して事業所の2階へ利用者と職員が全員避難された。限られたスペースの中で、利用者や職員の不安が募る中、職員が歌を歌うと、利用者も一緒に口ずさんだり、手拍子が起こったりして、場の雰囲気が「和んだ」という貴重な体験をされた。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）

※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の２/３くらいの
		○	**3. 利用者の１/３くらいの**
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	**2. 数日に１回程度ある**
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	**2. 利用者の２/３くらいが**
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	**2. 利用者の２/３くらいが**
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	**2. 利用者の２/３くらいが**
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	**1. ほぼ全ての利用者が**
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	**2. 利用者の２/３くらいが**
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	**2. 家族の２/３くらいと**
			3. 家族の１/３くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	**3. たまに**
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	**2. 少しずつ増えている**
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	**1. ほぼ全ての職員が**
			2. 職員の２/３くらいが
			3. 職員の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	**2. 利用者の２/３くらいが**
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	**2. 家族等の２/３くらいが**
			3. 家族等の１/３くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居（ユニット）ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

（注） 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
（他に「家族」に限定する項目がある）

●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）。

●職　員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をＰＲ!!!

ーサービス向上への３ステップー

事業所名	アクティブライフ保内
（ユニット名）	A棟
記入者（管理者）	
氏　名	篠　原　初　美
評価完了日	24年　8月　1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を掲げ、その理念の下スタッフ全員で実践し取り組んでいる。 (外部評価) 「地域　家族　ホーム間における相互のふれあいを大切にし、笑顔あふれるその人らしい生活を支援する」という理念を作成し、各ユニットの玄関に理念を掲示されている。管理者は「まだまだ地域とのふれあいが少ない」と感じておられ、スタッフ会時には「近所の方と挨拶からはじめていきましょう」と話されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な交流までとはいかないが、地域の行事に参加したりつながりを継続出来るように支援している。 (外部評価) 地域の盆踊りや夏祭り時には、区長の方に誘っていただき出かけられた。今年度、宇和の特別支援学校からの依頼で、職場体験に一人の生徒を受け入れておられる。7、8月と10日間ずつ来られており、利用者と馴染みの関係ができ、調査訪問時、利用者と笑顔で、和やかに過ごされる様子がうかがえた。事業所のある地区は、高齢で独居の世帯が多く、日中、道を行き交う人は少ないようだ。管理者は、今後、高齢者をはじめ地域の方に「気軽に来ていただける事業所にしたい」と考えておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域への支援まではできていないが運営会議を開催しその中で地域へのお願いをしたり地域への情報提供は行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会議は開催はしている。意見はサービス向上に活かされるように取り組んでいる。 (外部評価) 会議には、区長、地区の世話役、民生委員、日赤奉仕団の方等に参加していただいている。ご家族に会議を知っていただけるよう事業所では、ご家族全員に会議の案内をされた。そのような取り組みからご家族の会議参加が増え、「ケアの様子等もみれて良かった」等の感想もいただいた。出席できなかったご家族には、会議議事録を送付して「会議に関心を持ってもらいたい」と考えておられた。地区では、区長や地域の世話役の方は、毎年交替する仕組みであり、以前参加してくださっていた方と顔見知りになっていることから、「続けて気軽に参加いただけるような会議を計画したい」と話しておられた。昨年度は、会議の開催が4回となったが、今年度は、計画を立てて、6回開催できるよう取り組みをすすめておられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃から連携を行う体制となっており情報交換や協力関係を築いている。 (外部評価) 運営推進会議は、地域の方やご家族に参加していただきやすいように基本的に土曜日に開催されている。市の担当者にも会議に「地域やご家族の方に参加していただくことの大切さ」を理解していただき、快く参加していただいている。「さわやか相談員」の訪問が2ヶ月に1度あり、当日、相談員の訪問があり、利用者とゲーム等を一緒に楽しまれながら利用者の暮らしの様子を見ておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日頃より拘束をしないケアを行い理解している。 (外部評価) 玄関は、出入りするとチャイムが鳴るようになっている。事業所は、以前ケアハウスだったこともあり、居間から居室が見えない造りになっており、転倒等の心配がある方には、センサーマットを使用されている。音が鳴るとすぐに職員が駆け付けるようになり、転倒等は減少しているようだ。しかし、管理者は、センサーマットがあるからと「過信しすぎる」ことを懸念されており、職員には見守りも怠らないように注意を促しておられる。一日に一度、ご家族の声を聞くと「安心する」方があり、ご家族と相談して時間をみて、電話でお話できるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ同士が気が付いた点は声を掛け合い、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現時点ではこの制度を必要とされている方はおられない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に時間をかけて十分に説明を行ない疑問があればその都度対応をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時に家族に意見や要望を聞きそれを記録や業務日誌に残し職員で周知しながら家族さんとコミニュケーションをとっている。玄関にも意見箱を設置している。 (外部評価) ご家族が来られた時や帰る時は、必ず職員が挨拶等をしてコミュニケーションできるよう心がけておられる。又、ご家族の来訪は「お話をするチャンス」と捉えておられ、ご本人の日常の様子等を報告して、暮らしやケアの要望を聞き取っておられる。昨年、ご家族からの要望もあり、はじめてご家族を招待して「敬老会」を行われた。12名のご家族の参加があり、利用者は、ご家族と一緒にボランティアによる歌や職員の出し物等を楽しまれた。昼食は、利用者やご家族、ボランティアの方や職員等がテーブルを囲んで弁当を食べながらお話をされた。ご家族からは、「よかった。来年もやってほしい」との声があったことから、今年も開催を計画されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回の人事考課面接の機会を利用したり、日々スタッフからの意見や要望には耳を傾け個人的に話し合う機会を作っている。スタッフ会において職員の意見や提案を聞く機会はもうけていると思う。 (外部評価) 管理者は、毎月行う事業所全体の「スタッフ会」時、職員に「一人一言発言してほしい」と伝えておられる。全体の中で発言し難い職員には、スタッフ会の後行う「ユニット会」で意見を言えるような場面を作っておられる。行事は、毎月職員が順番に担当されており、外出行事等を計画されている。中庭に面した掃き出し窓の縦型ブラインドカーテンが、扱い辛いことを法人に相談されて、防炎カーテンに取り替られていた。事業所便り「ブルーベリー」送付時には、管理者が利用者個別に日々の暮らしの様子を手紙にして同封されているが、今後は、利用者個々に担当職員を配置して、ご家族とのやりとりをしてほしいと考えておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格収得に対してはスタッフ自信が前向きに考えており、スタッフの半数以上が介護福祉士を収得している。登用規定の周知をし常に向上心を持って働けるよう個々の努力や実績を評価している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等は案内資料を回覧し希望を随時とっている。法人内の勉強会に関しては平等を配慮しできるだけ全員の参加を心掛けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修や市の会議の参加で意見交換したりその後の繋がりを大切にしているが、相互訪問の活動はまだまだ少なく思う。	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 母体からの担任カンファレンスの日程連絡が入り都合のつく時は参加したり、入居時に本人さんの意向や要望が聞けない状態の方は家族に聞き安心と信頼関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の不安や要望等に耳を傾けその後も何かあれば直ぐに報告を行う事で信頼関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人とご家族の要望を聞き、必要なサービスを提供出来るように会議などで検討し対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者と共に生活する空間を大切にし本人の立場にたったケアを行うように取り組んでいます。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との関係が疎遠にならないように報告を行ったり、面会に来てもらえるように声かけなどしています.	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所前やなじみの人達と会える機会をつくったり継続出来るように支援をしている。 (外部評価) 毎日ご家族が来られ、午前中、一緒に過ごされる方や、毎日のように夕食の介助に来られるご家族もいる。入居前、母体病院に入院していた時、同室だった方が他ユニットにおられ、お互いの居室を行き来しておしゃべり等を楽しまれている。職員は、利用者が「住んでいたところに帰りたい」と言われた際、近くを車で走ってみられたが、道路が新しくなっていたり、新しい店ができたりして風景が変わっており、「利用者の記憶にある帰りたい場所と違っていた」こと等から、支援の難しさや工夫が必要なことを感じておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) スタッフが間に入ることでお互いに関わりが持てるようにできるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了した後にそのようなケースはまだありません。	
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の活動に関しては入居者の意思で決めれるように支援している。 (外部評価) 利用者個々の担当職員を配置し、センター方式のアセスメントシートを用いて情報収集に取り組まれている。職員は、ご本人に「ここで、これから何をしたいですか」「何をしてほしいですか」と聞いておられるが、「別に、何ちゃない」等との返答が多いようである。管理者は、今後さらに日々の記録に利用者が発した言葉等も記入するようにして、利用者個々の思いや意向を探っていきたいと考えておられた。	管理者は「日々の記録を充実させて、思いや意向の把握や情報の共有につなげていきたい」と考えておられる。利用者主体の暮らしを支えていけるよう、思いや意向の把握に取り組み、さらに、理念に沿った支援が実践できるよう、介護計画につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活や趣味をいかせる取り組みをしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録にその日の様子を記録しているので確認できます。気になる点など有ればその都度話し合っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人やご家族の要望を聞き、ケアプランを作成している。また、定期的にカンファレンスを行いその都度プランに反映している。 (外部評価) ご家族の来訪時等にケアに対する希望等をお聞きしている。「寝たきりにしないでほしい」「畑で花や野菜を作らせてほしい」等の希望もあるようだ。生活習慣病等がある方は、医師や看護師の意見を聞き、ご本人とご家族の意見や要望をもとに、職員間で話し合い、計画を作成されている。モニタリングは毎月実施され、基本的に半年毎の計画の見直しにつなげておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の個別の記録に記入をし、確認や相談を行いながら情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族との話し合いなどを通じて柔軟に対応をしている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 中高生の職場体験や見学などは定期的に要望があり受け入れを行っている。その他の地域資源の活用は十分とはいえない状況です。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医の定期的な往診があり医療連携はとれている。ご家族の希望があれば相談のうえで他の医療機関の受診も行い支援をしている。 (外部評価) 入居時に、医療連携体制についてご家族に説明して、他の医療機関をかかりつけ医とすることも可能であることを説明しておられるが、現在は利用者全員が、月2回往診があり、24時間対応が可能な協力医療機関で診てもらうようになっている。眼科や整形外科等、他科受診が必要な時は、かかりつけ医からご家族に説明され、基本的にご家族が付き添っておられる。歯科については、訪問歯科が利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 連携看護師が定期的に訪問し状態を確認し適切なアドバイスを頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 母体への入院がほとんどであるため、常に情報交換を行い本人やご家族が不安にならないように対応している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に医療の指針を提示し説明をさせて頂いている。地域関係者のチーム支援には欠けている部分が多い。 (外部評価) 利用契約時、事業所における看取り支援について、ご家族に説明されている。「そういう状態になった時に考えます」と言われるご家族がほとんどのようであるが、中には「最期までお願いしたい」と希望するご家族もある。事業所では、看取りの希望があれば、支援していきたいと考えておられる。	利用者には、100歳を超える方も複数おられ、事業所として終末期や看取りの支援を行うことを考えておられることからも、終末期のあり方や知識や技術を共有したり、職員やご家族で話題にする等、学ぶような機会を作っていかれてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修会などに参加する機会もあるので、スタッフ全員が見につけれるように取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害マニュアルを作成し、年2回の避難訓練も行なっている。地域との協力体制の下、運営推進会議で呼びかけており避難訓練の様子なども見ていただけました。 (外部評価) 東日本大震災の発生時には、津波警報が発令され、警戒して事業所の2階へ利用者と職員が全員避難された。限られたスペースの中で、利用者や職員の不安が募る中、職員が歌を歌うと、利用者も一緒に口ずさんだり、手拍子が起こったりして、場の雰囲気が「和んだ」という貴重な体験をされた。10月には、はじめて津波を想定した避難訓練を予定されている。実際に津波警報が出れば、高台へ避難しなければならないため、消防署のアドバイス等をいただきながら、事業所近くの高台へ避難する訓練を、利用者も参加して実施できるよう計画されていた。9月に行われる予定の地域主催の津波想定の避難訓練時には、職員も参加して協力体制作りをすすめたいと考えておられた。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人が人格を尊重し対応をしています。 (外部評価) 職員は、車椅子を移動する時、利用者に「手を中に入れてくださいね」と、利用者の肘に手を添えて声をかけたり、椅子に座る利用者の体が傾きかけると、「ちょっと座り直しましょうね」と優しく声かけをされていた。食事介助時には、利用者に「○○ですよ。○○も食べてみますか」等、スプーンを口に運ぶその都度、声かけをされていた。職員は、利用者個々に「その人の時間がある」と考えておられ、座ってじっとしているような時でも、声をかけるタイミングをみるようにされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 声かけをおこない決定は自己決定してもらえるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り利用者の希望に添うように努めている。一人一人のペースに合わせて支援をしております。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的な散髪をおこなったり、スタッフも気をつけて確認をおこなっています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片付けなど出来ることは一緒に取り組んでいます。 (外部評価) 法人の6つのグループホームが、順番に2ヶ月分ずつの献立を立て、それを基本にユニット毎に食事作りをされている。ご家族からいただいた野菜や、事業所で採れた野菜等を使ってアレンジすることもある。調査当日は、事業所で採れたかぼちゃを使ったコロッケを作っているユニットもあった。台所から目にしみる玉ねぎの匂いや、おかずが炊ける匂い等がしていた。食材は、基本的に近くのスーパーから食材が届くようになっている。利用者と、ごぼうの笹がき等の下ごしらえを一緒にされたり、食後、職員が洗った食器を拭く利用者の様子がみられた。職員は、食事介助をしながら一緒に同じ物を食べておられ、又、向かい合う利用者がお箸の持ち方をほめられ、にっこりと笑顔を返される等、利用者同士でもやり取りしながら和やかな食事の雰囲気であった。調査訪問時、利用者にとって懐かしいおやつの「かんころ」を手作りして楽しまれていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量などは日々チェックしていますし、水分が少ないなと思った方などには水分量をチェックしたりもしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い清潔を保てるようにしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人に合った介助を行いパットなど出来るだけ使わない取り組みなども行っている。 (外部評価) ほとんどの利用者が母体病院から退院後に、入居されるため、入居時は紙パンツを使用されている。入居後は、昼間はなるべく布パンツでトイレで排泄できるよう支援されている。以前は、トイレの扉が折戸タイプだったため、利用者は開閉が難しかったようだが、引き戸に取り替えておられ、利用者はご自分で戸を開閉してトイレを使用しやすくなったようだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維の多い食べ物や飲み物なども工夫しているし、体操などの取り組みも行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個人の希望に添えるように工夫したり、拒否などがあれば無理やりになどは行っていない。 (外部評価) 事業所では、基本的に2～3日に1度入浴できるように支援されている。入居以前は、入浴を好まれず清拭のみであった方が、入居後は、シャワー浴からはじめて、現在では浴槽で温まり「気持ちよかった」と喜ばれているようだ。職員は、入浴時は、「利用者と1対1になれる時間」でもあり、お話をしたり歌がお好きな方とは一緒に歌う等して、ゆったり入っていただけるよう支援されている。職員が一人で介助して浴槽に浸かれない方は、併設デイサービスのリフト浴で入浴できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意志を尊重したり休憩をする時間なども作っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服している薬など内容も理解をし状態の変化などに注意をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人に合った役割をもってもらうことで生きがいや張り合いのある生活になるように取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事などに参加をしたり、外出が難しいときには庭に出たり気分転換を出来るようになどしている。 (外部評価) 事業所の駐車場でバーベキュー大会をした時は、「外で食べるとおいしい」と利用者は喜ばれたようだ。事業所には、軽自動車が1台ということもあり、利用者個々の希望に沿った外出が難しい面もあるようだが、時には、近くのスーパーやドラッグストアまで、ドライブも兼ねて、おやつ等を買いに行くこともある。大勢で出かける際には、デイサービスの車を借りて、桜やコスモス等、季節の花を見に行かれたり、法人のバザーや夏祭り等にも参加されている。ご家族から「ホタル祭り」があることを教えていただき、今年はじめて2名の利用者が職員と一緒に出かけられた。	外出する条件については制限もあるだろうが、利用者一人ひとりについて、行ってみたい場所や懐かしいところへ出かけてみるような機会も作ってはどうだろうか。又、利用者の重度化や高齢化等もあるだろうが、利用者の希望やご家族の要望等もお聞きしながら、日々の散歩等、ちょっと外に出て気分転換できるような機会等を増やしていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持されていない方が多く必要物品は立て替えたり家族が持ってこられている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 現在は希望される方はおられませんが、希望される方には出来るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 温度管理に注意をし入居者が利用しやすい空間作りを目指している。 (外部評価) ユニット毎に、外から入れる玄関がある。各ユニットは、ほぼ同じ造りになっており、玄関や廊下には行事等の写真が貼ってあった。調査訪問時、居間では、ぬり絵をされたり、テーブルゲーム等を楽しんでおられ、利用者の笑い声等も聞こえてきた。玄関のソファに座って外を眺める方や、居間のソファーでは職員と一緒に洗濯物をたたむ利用者の様子もみられた。居間から見える中庭には、桜やブルーベリーの木が育っている。天気のいい日には、テラスで日向ぼっこしたり、ブルーベリーや野菜を職員が収穫する様子を利用者が見学されている。今年度中にスロープを含め、庭を整備する計画があり、来年春には整備される予定となっていた。職員は、庭が整備されたら、花や野菜等「作る楽しみ、採る楽しみを利用者に味わっていただきたい」と話しておられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居室はそれぞれ個室となっており、ホールにはソファーがあり入居者同士が過ごせるような空間になっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたものを持参してもらったり本人が使いやすい環境に取り組んでいる。 (外部評価) ベッドとタンスは事業所で備えてある。居室の扉には、車椅子を使用する方、歩行される方等、利用者個々が見やすい位置に名前を貼っておられた。習字の作品やご家族がレイアウトした写真等を壁一面に飾っている居室もあった。テレビを持ち込んでいる方は、ご家族が来られた時に一緒に見て楽しまれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 目印などを表示して分かりやすいように工夫している。	